ケニア　サイディア・フラハ訪問とサバンナの旅　　退職者懇談会への投稿

遥かなる地、アフリカのケニアで頑張っている小倉寛太郎さんを訪ねる旅が 1988 年 5 月に行われ、組合員と家族 5 名を含め 20 名の参加で行われたのが始まりです。

山崎豊子作の「沈まぬ太陽」がミリオンセラーになったこと、その主人公は今は亡き小倉寛太郎さんであることも知られているところです。彼が、日航労組の委員長を降りたらすぐに、カラチ、テヘラン、そしてケニアのナイロビまで「左遷」されました。

小倉さんの海外での活躍は、なんといってもケニアにおける活動です。象を撃つことから始まった彼は、その後、写真に変わり、多くの素晴らしい写真を残しました。彼の活動の一環として、ケニアの「孤児たち」の支援もその一つです。孤児とは、自然を守るレンジャー達が不法・不当な外国人の密猟者によって殺害された方の子供たちです。

小倉さんは、有志と協力して「サイディア・フラハ」という養護施設を立ち上げました。そして、多くの日本のボランティアにその支援を訴えました。私たちも、現役時代から、そして定年後も訪問を続け、孤児たちの支援も行って来ました。その中で「サボレ君」という孤児を１２年にわたり里親として、生活の支援を行って来ました。彼は昨年、高校を卒業して専門学校に入りました。彼の今後は？、国の未来とも関係し、大変に難しい課題ですが、どんな立派な「ケニア人」になるのか、とても興味があるところです。とにかく、一人の孤児を養育支援してきたことは小倉さんの遺志を継いだものと思っています。

今回の旅（2011 年 9 月）は、6 回目になりますが日航労組 OB/OG 会員および家族の 14 名での出発になりました。成田空港からカタール航空でカタールで乗り継ぎ、ナイロビ空港に到着すると、現地旅行社のスタッフとサイディア・フラハ日本人スタッフの迎えがありました。3 台のサファリカーに分乗しナイロビの養護施設サイディア・フラハに向かいました。ここでは子供たちの歌・ダンスの歓迎セレモニーと施設スタッフが作った料理を子供たちと同じテーブルで食事をとりました。施設に建設された小倉記念ガーデンで、日本から持ち寄った文具類や裁縫道具類をプレゼントしました。特にノートや筆記用具は貴重な文具類で喜ばれます。

サファリは、アンボセリ国立公園とマサイマラ国立保護区の 2 箇所をサファリカーに分乗し、早朝と夕方の 2 回行います。早朝のサファリは菓子パンとコーヒーの軽食を済ませ、暗いうちに出発します。肉食動物の獲物狩りの時間に合わせる為です。宿泊施設からデコボコの道路と平原を 30 分ほど走ると、肉食動物の獲物狩に遭遇することがあります。ライオンの勇ましく、また子供達の可愛いしぐさ等様々ですが歓声が上がります。カメラマンはチャンスを逃すまいと目を離せません。

早朝サファリは 2 時間程で、ロッジに戻りゆっくりと朝食をとりながら、サバンナの風景、出会った動物の話題になります。サファリ中にサファリカーから降りようとしたらドライバーに怒られた事など話は尽きません。もしサファリカーから降りた場合、野生動物は身の危険を感じ、時には襲い掛かってくる場合があるそうです。絶対に車から出てはいけません。

夕方のサファリは 4 時頃出発します。陽の高い時間帯は草食動物や鳥類を観察することが出来ます。像、キリン、ヌー、水牛、インパラ、ガゼルなどゆったりと食事を採っています。陽が傾き始めると、肉食動物の危険を感じながら落ち着かない様子です。像の群は食事を終え夕陽を浴びながら寝床に帰っていきます。私たちも動物たちを見送りながらロッジに戻ります。

ケニアとタンザニアの国境沿いにマラ川があります。ヌーが群になって川を渡ることがあるが、今回はサバンナの草原に充分な草木が在るためヌー達は川を渡る必要は無く、川渡りに遭遇することは有りませんでした。

サバンナのサファリを体験したのち、フラミンゴで知られているナクル湖に向ったが、湖を埋め尽

くすほどのフラミンゴを期待したが数えられる程しか見られませんでした。しかし多くのペリカンや絶滅を危惧されていたシロサイは 10 頭ほど見られました。国立公園で行われているレンジャーによる保護活動が功をなしていると思われます。しかし、現地スタッフの説明では、密猟は今でも根絶していないそうです。今回の 11 日間の旅は、サバンナの大自然を国を挙げての保護活動が行われている事によって得られる感動の旅でした。これからも美しいサバンナが守られることを期待します。

地上職　名倉忠義

「サイディア・フラハ」はスワヒリ語で「幸福の手助け」という意味で、1996 年に開園され、ケニア人が中心となり日本人は側面から支える組織でケニア政府から NGO として認可されています。現在は養護施設、支援小学生、裁縫教室など 100 名近くの子供たちが学んでいます。

小倉さんはサイディア・フラハの設立当時から支援を行い日航でも「ケニアの孤児の里親の会」を募り現在も続けています。

「サイディア・ フラハ公式サイト」があります。詳細は「サイディア・フラハ」で検索してください。